

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2022

課題番号：20K00313

研究課題名(和文) 神奈川近代文学館所蔵久生十蘭特別資料に関する文献学的研究

研究課題名(英文) A Bibliographical Study on the Special Materials of Juran Hisao in the Collection of Kanagawa Museum of Modern Literature

研究代表者

須田 千里 (Suda, Chisato)

京都大学・人間・環境学研究科・教授

研究者番号：60216471

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)： 神奈川近代文学館所蔵の久生十蘭(1902～57)関係資料を調査した結果、以下のよう  
な成果を得た。

「新西遊記」(昭和25年)について、久生十蘭遺品の封筒に入っていた記事から以下の材源を具体的に特定し  
た。ハガード「療法は百方尽せり されど王は死せり」、吉田謙吉「蒙古草原の 喇嘛廟と喇嘛踊り」、ヘディ  
ン「雪のシベリア越境」、松岡譲「石室ひらく」、竹節作太「処女峰ナンダ・コットに挑む」、アベ・ユック  
「鞭鞭見聞記」、アルマン「エヴェレスト征服の闘ひ」などである。また、「新西遊記(補遺)」の草稿(ペン書  
き)は、『西藏旅行記』一四回～三一回の記述を圧縮したもので、虚構性は本作よりも低いことがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

まず、久生十蘭旧蔵の資料を実際に調査して、「新西遊記」の素材を具体的に特定した点に学術的意義があ  
る。また、調査の過程で他作品の材源もいくつか発見できた。たとえば、「白雪姫」がチンダル『アルプスの氷  
河』や平凡社『大百科事典』等に拠ること、「湖畔」に夏目漱石「坊っちゃん」からの内容的影響のあること、  
「黄泉から」が、夏目漱石『彼岸過迄』『それから』に拠り、同じ千代という名を持つ「な泣きそ春の鳥」「つ  
める」ともども川端康成「処女作の祟り」に基づく心霊小説的枠組を持つこと等である。久生十蘭は近年人気を  
集めている作家であり、この研究成果によって久生十蘭への社会的関心を深めることが予想される。

研究成果の概要(英文)：As a result of our investigation of materials related to Juran Hisao  
(1902-1957) in the collection of the Kanagawa Museum of Modern Literature, we have obtained the  
following results.

The following sources were found in an envelope that was left behind by Juran Hisato regarding "New  
Journey to the West(Shin Saiyuuki)" (1950). Haggard's "Therapy is exhausted in a hundred directions,  
but the King has dead," Kenkichi Yoshida's "Lama Temple and Lama Dance in the Mongolian Steppe,"  
Hedin's "Trans-Siberian Border Crossing in Snow," Yuzuru Matsuoka's "Opening the Stone Room," Sakuta  
Takefushi's "Challenge to Nanda Kot, the Virgin Peak," Abe Huc's "Tartary: A Chronicle of Visits to  
Tartary," and Armand's "The Battle for the Conquest of Everest. In addition, the draft (penned) of  
"New Journey to the West(Shin Saiyuuki) (Addendum)" is a compressed version of the descriptions in  
the 14th to 31th of "Travels to Tibet," and was found to be less fictional than the main work.

研究分野：日本近代文学

 キーワード：久生十蘭 「新西遊記」 「黄泉から」 「白雪姫」 「犁氏の友情」 「黒い手帳」 「鈴木主水」  
「湖畔」

## 1. 研究開始当初の背景

研究開始当初の背景は、神奈川近代文学館に所蔵される久生十蘭関係資料(草稿・原稿類、発表作品の切り抜きや手入れ資料、作品執筆に際し使用した雑誌・新聞記事など関連資料、同時代評、写真などの特別資料 423 点)の存在を、『定本 久生十蘭全集』の解題によって知ったことである。その分析をすることで、作品の素材や成立過程を解明できるのではないかと考えた。

## 2. 研究の目的

神奈川近代文学館所蔵の上記久生十蘭関係特別資料をすべて調査し、データを取った上で、久生十蘭作品の素材や成立過程を明らかにすることが目的である。

## 3. 研究の方法

神奈川近代文学館に年に数回出張し、所蔵される上記久生十蘭関係特別資料をすべて調査し、データを取る。また可能な範囲でコピーを取り、またはデジタルカメラで撮影する。これらを分析し、久生十蘭作品の材源や成立過程を明らかにする。

## 4. 研究成果

久生十蘭自筆資料や手入れ資料、雑誌・新聞記事、同時代評、写真などを閲覧、コピーし、調査した結果、『定本 久生十蘭全集』解題に記載・指摘されたことがらをさらに掘り下げて検討・分析することができた。『定本 久生十蘭全集』解題に記載された以上の新たな発見は、当初見込んだほどではなかったが、以下のような成果が得られた。

(1) 研究論文としては、以下の3点を公表した。

「「白雪姫」の材源と語り 久生十蘭論 VIIII」(2020年6月「国語国文」)。「白雪姫」の主たる材源としてチンダル『アルプスの氷河』、平凡社『大百科事典』、グリム童話「白雪姫」、MUIRHEADの*THE FRENCH ALPS*などを指摘するとともに、三人称小説に見える本作が、じっさいは一人称小説である事を明らかにした。具体的には、末尾部分の伝聞体(三個所)と「岩本」という呼称から一人称小説と考えられること、公判での阿曾の供述に虚偽の疑いのあることから、阿曾によるハナ殺害の可能性がある一方、逆に阿曾の供述に沿えば、阿曾がザイルを結んだことで「悪性女」ハナが善良な「白雪姫」へと急転換したとも考えられること等である。本作は一人称小説の特徴を活かし、あえて解釈を一つに絞らせないことで奥行きのある作品となった。

「「坊っちゃん」と『夢酔独言』、ステイーブンソン、久生十蘭「湖畔」」(2020年5月京都漱石の会「虞美人草」25)。夏目漱石「坊っちゃん」(明治39年)から久生十蘭の代表作「湖畔」(昭和12年)への内容的な影響を明らかにした。具体的には、奥平が息子へ当てた手紙で「俺」と自称すること、「おれは到底人に好かれる性でないとおきらめて居たから、」(「坊っちゃん」一)が、「湖畔」の「俺は幼少の頃から自分は何びとにも愛されぬと断じ込み、儂い諦めを心に抱いて」と類似すること、「清は玄関付きの家でなくつても至極満足の様子であつたが」(「坊っちゃん」末尾)が、奥平の妻「陶は二人の間に突ツ立ツてゐて至極幸福さうに見えた。」(「湖畔」末尾)と類似すること、である。「坊っちゃん」も奥平も、父母からの愛を享けずに育つ一方、自分だけを愛する女性(清・陶)がいた。

「孟蘭盆に帰る霊 久生十蘭論 IX」(2022年10月「国語国文」)。「生霊」と「黄泉から」の成立・材源等を明らかにした。具体的には、「生霊」について山下武の指摘を深め、ポオ「鋸山奇談」からの影響が見られること、本作は現実と非現実の間に読者を惑わせるトドロフ的幻想小説であり、姉妹作「豊年」ともども、松久三十郎が別人に同化するような異常感覚と、残された人々の安らぎが主眼であること等である。「黄泉から」については、従兄妹同士幼い頃から許

嫁のように育てられ、女性の方は相手が好きなのに、男性は彼女を異性として見られずその気になれない点が、綾瀬での月見の挿話も含め、夏目漱石『彼岸過迄』の影響であること、好きな男性の結婚によって楽になれるという女性像は同じく『それから』の影響であること、「黄泉から」と同じ千代という名を共有する久生十蘭の初期作品「な泣きそ春の鳥」「亡霊は TAXI に乗つて」「つめる」は、川端康成「処女作の祟り」に依拠し、心霊小説的な枠組を継承していること、主人公が季節外れの蟋蟀を聞いておけいを思い出すのは謡曲「松虫」に拠り、「松虫」の世界を様々にずらしていること、舞台のカイマナは雪や月によって日本と重ね合わされ、おけいに寄せる光太郎の優しさが彼の中で色褪せた花をよみがえらせる結末であること等である。

また、研究論文として公表してはいないが、次のような成果を得た。

(2) 「新西遊記」(昭和 25 年)について、久生十蘭遺品の封筒に入っていた記事から以下の材源を特定した。さらに、草稿と完成作の関係を明らかにした。

感冒をこじらせただけに見える第八代法皇(初出では「十二代の法皇」)が祈禱と治療の末逝去した話は、『西藏旅行記』105 回とともに、ハワード W. ハガード「療法は百方尽せり されど王は死せり 「悪魔・医薬・医者」より抜萃」(昭和 21 年 10 月「リーダーズ ダイジェスト」1 巻 5 号、80~81 頁の切り抜き)に拠る。

ドルヴィルの旅行記の引用は、吉田謙吉「蒙古草原の 喇嘛廟と喇嘛踊り」(昭和 23 年 2 月「談話」1 巻 3 号、28~33 頁の切り抜き)とスウェン・ヘディン「雪のシベリア越境」(掲載誌・掲載年月未詳、129~132 頁の切り抜き)に拠る。

ラッサの大学に、「千年も前に消滅してしまつた世界宗教の経典が原本のままで残つてゐる。」は、松岡譲「石室ひらく」(昭和 24 年 6 月「天馬」1 巻 5 号、14~29 頁の切り抜き。目次では「探検小説」と角書)に拠る。

世界地図の空白地帯がアフリカのイスラム王国と西藏だけというのは、竹節作太「処女峰ナンダ・コツトに挑む」(昭和 24 年 7 月「天馬」1 巻 6 号、81~87 頁の切り抜き)に拠る。

「韃靼古道」「韃靼旅行雑写」はアベ・ユック「韃靼見聞記」(昭和 24 年 3 月「カトリックダイジェスト」2 巻 3 号、69~78 頁の切り抜き)に拠る。

西藏高原での智海の苦難は、ジェームズ ラムゼー アルマン「エヴェレスト征服の闘ひ」(昭和 21 年 9 月「リーダーズ ダイジェスト」1 巻 4 号、51~58 頁の切り抜き)に拠る。

玄奘三蔵がお経を持ち帰った話、一切経の話は、前掲「石室ひらく」に拠る。

グンパールの僧院は、前掲「蒙古草原の 喇嘛廟と喇嘛踊り」に拠る。

ドーラギリ越えは、前掲「エヴェレスト征服の闘ひ」「雪のシベリア越境」による。

和堂が「石の扉」を開けて智海を導いた部屋は、前掲「石室ひらく」の千仏洞の石室のイメージであろう。

トンプックツォの話は、前述の封筒以外の旧蔵資料中の、ローラ・シー・ブルトン「仏領西アフリカ横断記」(掲載誌・掲載年月未詳、102~107 頁の切り抜き)に拠る。

神奈川近代文学館蔵「新西遊記(補遺)」の草稿(ペン書き)は、『西藏旅行記』14 回~31 回の記述を圧縮したもので、虚構性は完成作「新西遊記」よりも低い。

(3) 「ヒコスケと艦長」(昭和 16 年)「遣米日記」(昭和 17 年)「公用方秘録二件」(昭和 18 年)「影の人」(昭和 28 年)「不滅の花(インモンテル)」(昭和 31 年)などの幕末維新期を扱う歴史小説に共通した材源は、徳富蘇峰『近世日本国民史』の 44『開国初期篇』、55『内外交渉篇』である。ここには稀覯の史料も含まれていたが、久生十蘭は直接原史料に当たらず、孫引きで書いたことになる。

(4) 「<sup>カラスキー</sup>犁氏の友情」(昭和14年)では、道徳社会学の博士山川石亭老人が、のちに大統領を暗殺するカラスキーから強盗に誘われる。ただし、カラスキーは石亭の正体を看破していた。この設定は、ジュール・ロマン「ル・トルアデック氏の放蕩」(昭和3年第一書房『近代劇全集』23所収)で、学士院会員の地理学者ル・トルアデックという老人が、本物の泥棒トレストイヨンから仲間だと誤解される設定に拠っている。堅物の老学者が、強盗や泥棒の仲間だと誤解され困惑する点が一致する。冷静な友人ベナンが本作の語り手に当たる。

(5) 「黒い手帳」(昭和12年)で、ルーレットに勝つには「勝負にたいする絶対の無関心、純粋に恬淡な心が必要」というのも、前記「ル・トルアデック氏の放蕩」の主人公が、賭博に全く無関心だったためにモンテカルロで大儲けする(逆に勝とうとすると負けてしまう)設定と同じ発想であり、学究肌の男の恋が遂げられない点も併せて、「黒い手帳」の材源になったと考えられる。

(6) 「鈴木主水」(昭和26年)における主水とお糸の関係は、菊池寛「藤十郎の恋」(大正8年)の坂田藤十郎とお梶の関係に拠る。すなわち、美男の誉れ高い鈴木主水(「藤十郎の恋」では坂田藤十郎に当たる)が、愛妾を主君から遠ざけるため(同、芝居の工夫のため)、かつて町娘で今は主君の愛妾(同、かつて歌妓で今は宗清の妻)である美貌のお糸(同、お梶)に偽りの告白したところ、相手はそれを本気にし、自分も同じ気持ちだったと泣き伏す点が共通する。特に、藤十郎とお梶、主水とお糸が二人で「連舞(つれまひ)」を舞った点が決定的な根拠となる。「藤十郎の恋」では、藤十郎の芸のために恥をかかされたお梶が自死するが、「鈴木主水」のお糸は吉原に奴勤めをさせられた後、主水と心中する。本作は、女心の不可解さにたじろぐ主人公、心中という結末において「藤十郎の恋」と対照的であり、ここに「鈴木主水」の独自性があった。

(7) 「青髯二百八十三人の妻」(昭和28年)と「母子像」(昭和29年)の主人公が、男性と性交渉する女性(「母子像」では母)を豚だというのは、シェイクスピア「ハムレット」三幕四場のハムレットの台詞に拠るだろう。ハムレットは、再婚した母が情慾に駆られ慎みを忘れたと責め、「油ぎった寝床で大汗かいて、豚のように醜い情痴の生活を続ける……」(市河三喜・松浦嘉一訳『ハムレット』昭和24年7月岩波文庫)と詰る。原文「the nasty sty」はひどく不潔な豚小屋の意である。

(8) 「湖畔」(昭和12年)では、水死体の虫歯痕が陶と同じように奥平の目に見えたことから、実は陶は溺死しており、後に現れたのは幽霊または奥平の狂気を示す、と読む向きがある。しかし「つめる」(昭和9年)でも、千代の霊に憑依されたらしい姉の「前歯の丸い虫食ひの穴」(虫歯痕)まで「私」には千代そっくりに見えたとあり、これは「私」の誤認と読める(憑依前後で、物理的に虫歯痕や顔が千代と同じに変化するとは考えられないため)。こうした先例から見て、奥平も動揺の余りそう誤認したと考えられ、従って、虫歯痕は水死者を陶本人とする客観的証拠とはならないだろう。さらに、一度は陶の存在を幻覚だと思ってみたものの、やはり本物だったと奥平が明言しているのは、陶は現実に生きていたのだという読者への念押しであり、それを再度ひっくり返して幻覚と解釈するのは、本文にそう書かれていない以上無理がある。なお、一年後の「刺客」(昭和13年)末尾には祖父江の発狂が明白に語られていたが、奥平にそうした兆候は見られない。「湖畔」には都合の良い偶然が多く見られたが、虫歯痕の見間違いもこれと同様で、作者の技法の未熟さゆえと考えられる。

(9) 「内地によるしく」(昭和19年)に登場する仙台浄瑠璃は、式亭三馬『浮世風呂』前編下からの引用である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 須田千里	4. 巻 89巻6号
2. 論文標題 「白雪姫」の材源と語り 久生十蘭論VIII	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「国語国文」	6. 最初と最後の頁 32 - 54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田千里	4. 巻 25
2. 論文標題 「坊っちゃん」と『夢酔独言』、スティーブンソン、久生十蘭「湖畔」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 「虞美人草」	6. 最初と最後の頁 8 - 10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 須田千里	4. 巻 91巻10号
2. 論文標題 盃蘭盆に帰る霊 久生十蘭論IX	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 「国語国文」	6. 最初と最後の頁 27 - 55
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------